

東日本大震災の災害支援のお礼と状況について

福島県支部長 大堀 幸也

3月11日に起きた東日本大震災から2ヶ月がたちました。

全国の会員の皆様からのご支援、本当にありがとうございます。何時間もかけて本部に支援物資を届けてくださった方々。まだ余震の続く中、被災地に物資を届けてくださった本部の方々。災害地や避難所のケアボランティアをして下さった方々、そして被災患者さんを受け入れていただいた施設の皆様。改めて、ありがとうございます。

今回の災害に際し、精神看護に関わる同じ仲間がいること、そして、それを動かす組織があることをこんなに心強く感じたことはありません。

また、被災地で頑張っている会員の皆様、本当にお疲れ様です。まだまだ大変な時期が続くかとおもいますが必ず復興します。力を貸してくれる仲間もいます。頑張ってください。

福島県の被害状況は、太平洋に面する浜通りにおいて、地震・津波による被害が2施設。さらに、12日に原発で起こった水素爆発による緊急避難で4施設が稼働できなくなり、概算すると約1000名の患者さんが全員避難せざるを得ない状況に追い込まれました。また、これにより、双葉、相馬地区は全ての精神科医療機関がなくなってしまうという事態になってしまいました。

いわき市でもライフラインが全てストップし病院機能を維持するのに大変だったとのことです。さらに浜通り地区は、原発のため支援物資が2週間以上当初ほとんど入らず、食物確保のため毎日近隣に食糧調達に走り回ったとのことでした。

県の中心部にあたる中通り地区でも、1施設が倒壊、ライフラインも全てストップしました。毎日水を運搬していたとのこと。この地区も帰宅できずに業務に没頭していたとのことでした。中通りは県の大動脈が走るところなため、この地が被災したため県全体の連絡網が寸断されたのが福島県にとっては大きな痛手となりました。

会津地区は、浜通りからは100キロ以上離れている為、一部倒壊の恐れのある道路、建物がありましたが地区全体に及ぼす大きな被害はありませんでした。ただ、大動脈である中通りの被害が大きかったため、物資は全く入ってこない状況になり、食事制限を行わなければならない状況でした。

県全体では、災害当初、地震及び原発のため、郵便、宅配、輸送等が全てストップ。支援物資も支援人員も全く入らないという状況でした。

2ヶ月が過ぎ何とか動き始めた実感している所ですが、原発問題は拡大するばかりで、まったく先は読めない不安定な状況は続いています。前を向いても光がさしてこない状況です。そんな中ですが、福島県支部としましては、望みを探したくなる中間は見ずに、もっと視線を上げて空を見、反面、しっかりと足元に視線を落とし着実に、県全体の精神科看護を支えていく一端を担っていきたいと思います。

最後に、全国の会員の皆様のお力添え、本当に感謝いたします。